

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:化学基礎 校内科目名:化学基礎演習  
 教科担当者: 加藤 友啓 富樫 良隆

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書:

「高等学校 改訂 化学基礎」(第一学習社)

補助教材:

「ニューステージ 化学図表」(浜島書店)

「セミナー 化学基礎+化学」(第一学習社)

「ネオパルノート 化学基礎」(第一学習社)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1章物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学現象が日常生活に潜んでいることや、身の回りの物質を知ること、化学の学習の必要性を認識する。</li> <li>・化学の基本法則を理解したうえで、包括的に問題を正しく理解し、解答を導く力を養う。</li> <li>・計算練習から繰り返し反復練習することで基礎学力を身に付ける。</li> </ul>	(観点) ・原理・法則の理解ができているか。 ・問題文を正しく理解し、答えを導き出せるか。 ・自分なりの目標に向かって成果を上げられたか。 (方法) 定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	22
2 学期	<2学期> 2章 物質の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学現象が日常生活に潜んでいることや、身の回りの物質を知ること、化学の学習の必要性を認識する。</li> <li>・化学の基本法則を理解したうえで、包括的に問題を正しく理解し、解答を導く力を養う。</li> <li>・計算練習から繰り返し反復練習することで基礎学力を身に付ける。</li> <li>・実験も行い器具の使い方になれる。</li> </ul>	(観点) ・原理・法則の理解ができているか。 ・問題文を正しく理解し、答えを導き出せるか。 ・自分なりの目標に向かって成果を上げられたか。 (方法) 定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	28
3 学期	<3学期> 実践問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学現象が日常生活に潜んでいることや、身の回りの物質を知ること、化学の学習の必要性を認識する。</li> <li>・化学の基本法則を理解したうえで、包括的に問題を正しく理解し、解答を導く力を養う。</li> <li>・計算練習から繰り返し反復練習することで基礎学力を身に付ける。</li> <li>・実験も行い器具の使い方になれる。</li> </ul>	(観点) ・原理・法則の理解ができているか。 ・問題文を正しく理解し、答えを導き出せるか。 ・自分なりの目標に向かって成果を上げられたか。 (方法) 定期考査、小テスト、レポート、授業態度、発言、出席状況を総合的に判断し評価する。	20
			合計	70

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:物理基礎 校内科目名:物理基礎演習  
 教科担当者: 栗原 翔太郎

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書:  
 「改訂版 物理基礎」(数研出版)

補助教材:  
 「四訂版 リードα 物理基礎・物理」(数研出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 力と運動 エネルギー 波動 電気	2年次で行った物理基礎を全般的に復習し、センターレベルに対応できるような発展的な内容を教科書・副教材を使用して学習する。適宜実験を行う。定期考査を行い学習の到達度を確認する。	(観点)物理基礎の内容を、センター試験程度で理解できているか。 (方法)定期考査、提出物、演習、出席状況その他を総合的に判断して評価を行う。	22
2 学期	<2学期> 中間考査まで センター対策 運動の法則 力学的エネルギー  期末考査まで センター対策 波の性質 音、光 電流と磁場、交流	センター試験程度の問題対策として演習と解説を行い、副教材を利用して学ぶ。適宜、過去のセンター試験を利用したテストも行う。	(観点)物理基礎の内容を、センター試験程度で理解できているか。 (方法)定期考査、提出物、演習、出席状況その他を総合的に判断して評価を行う。	28
3 学期	<3学期> まとめ	センター試験程度の問題対策として演習と解説を行い、基本的な問題を解けるようにする。問題集を教材として利用する。適宜、過去のセンター試験を利用したテストも行う。	(観点)物理基礎の内容を、センター試験程度で理解できているか。 (方法)定期考査、演習、出席状況その他を総合的に判断して評価を行う。	20
			合計	70

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:生物基礎 校内科目名:生物基礎演習  
 教科担当者: 加藤 友啓 富樫 良隆

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書:  
 「改訂版 生物基礎」(数研出版)

補助教材:

「三訂版 フォトサイエンス生物図録」(数研出版)

「改訂版 スタディアップノート 生物基礎」(数研出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	第1章 生物と遺伝子 1 生物の構造と機能 2 細胞とエネルギー、共生説 3 遺伝情報とDNA 4 遺伝情報の分配、遺伝情報とタンパク質 第2章 生物の体内環境の維持 5 体液の恒常性 6 自律神経系とホルモン	2年次履修の生物基礎をより深く学ぶことで、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 また、問題演習により、入試問題等での確に解答する知識や演習力を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 問題演習等を通し、科学的な考え方や考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	22
2 学期	7 免疫 第3章 生物の多様性と生態系 8 植生の多様性、バイオーム 9 生態系 演習問題 第1回 第2回	2年次履修の生物基礎をより深く学ぶことで、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 また、問題演習により、入試問題等での確に解答する知識や演習力を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 問題演習等を通し、科学的な考え方や考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	28
3 学期	受験対策演習 センター試験対策演習	2年次履修の生物基礎をより深く学ぶことで、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 また、問題演習により、入試問題等での確に解答する知識や演習力を養う。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 問題演習等を通し、科学的な考え方や考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身についているか。	20
			合計	70

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:物理 校内科目名:物理  
 教科担当者: 栗原 翔太郎

対象年次:3

4単位

使用教科書・教材

「改訂版 物理」(数研出版)

補助教材:

「四訂版 リードα 物理基礎・物理」(数研出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1 力と運動 ① 平面内の運動 ② 剛体 ③ 運動量の保存 ④ 円運動と万有引力 2 熱と気体 ① 気体のエネルギーと状態変化 3 波 ① 波の伝わり方 音の伝わり方 光	物理基礎での学習を基礎として、「力と運動」、「熱と気体」、「波」を中心に授業を行う。演習や課題研究を通して物理的に探究する能力と態度を育成する。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できているか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価をする。	44
2 学期	<2学期> 4 電気と磁気 ① 電場 ② 電流 ③ 電流と磁場 ④ 電磁誘導と電磁波	物理基礎での学習を基礎として、「電気と磁気」、「原子」を中心に授業を行う。演習や課題研究を通して物理的に探究する能力と態度を育成する。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できているか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価をする。	56
3 学期	<3学期> 5 原子 ① 電子と光 ② 原子と原子核	物理基礎での学習を基礎として、「力と運動」、「熱と気体」、「波」、「電気と磁気」、「原子」を中心に授業を行う。課題研究を通して物理的に探究する能力と態度を育成する。	(観点) 基本的な概念や原理・法則が理解できたか。探究の過程を通して、科学的に考える力を習得したか。 (方法) 定期考査、小テスト、提出物、授業態度、出席状況を総合的に判断して評価する。	40
			合計	140

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:化学 校内科目名:化学β  
 教科担当者: 水野 貴博 富樫 良隆

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書:「改訂 新編化学」(東京書籍)

補助教材:

「ニューサポート新編化学」(東京書籍)

「ニューステージ化学図表」(浜島書店)

「セミナー 化学基礎+化学」(第一学習社)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<3学期> 4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 無機物質と人間生活  5編 有機化合物 1章 有機化合物の基礎 2章 炭化水素 3章 アルコールと関連化合物	・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・教科書の例題、演習、副教材を通じて、原理・法則を実際に計算する。 ・実験を通じて計算した理論と実際がどう符合し、どう異なっているか認識する。 ・身の回りの物質を知ること、化学物質、化学現象が日常生活に潜んでいることを認識し、原理法則を応用して私たちの生活が豊かになっていることを理解する。	<評価の観点> ①基本的な概念や原理・法則が理解できたか。 ②化学の学習を通して探究する能力・態度が身に付いたか。 ③授業に積極的に取り組んだか。 <評価方法> ①定期考査②実験報告書 ③授業態度④出席状況	22
2 学期	<2学期> 5編 有機化合物 4章 芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活  6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物 2章 合成高分子化合物 3章 高分子化合物と人間生活	・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・教科書の例題、演習、副教材を通じて、原理・法則を実際に計算する。 ・実験を通じて計算した理論と実際がどう符合し、どう異なっているか認識する。 ・身の回りの物質を知ること、化学物質、化学現象が日常生活に潜んでいることを認識し、原理法則を応用して私たちの生活が豊かになっていることを理解する。	<評価の観点> ①基本的な概念や原理・法則が理解できたか。 ②化学の学習を通して探究する能力・態度が身に付いたか。 ③授業に積極的に取り組んだか。 <評価方法> ①定期考査②実験報告書 ③授業態度④出席状況	28
3 学期	3年間の復習・問題演習	・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・教科書の例題、演習、副教材を通じて、原理・法則を実際に計算する。 ・実験を通じて計算した理論と実際がどう符合し、どう異なっているか認識する。 ・身の回りの物質を知ること、化学物質、化学現象が日常生活に潜んでいることを認識し、原理法則を応用して私たちの生活が豊かになっていることを理解する。	<評価の観点> ①基本的な概念や原理・法則が理解できたか。 ②化学の学習を通して探究する能力・態度が身に付いたか。 ③授業に積極的に取り組んだか。 <評価方法> ①定期考査②実験報告書 ③授業態度④出席状況	20
			合計	70

# 令和5年度年間授業計画

教科:理 科 科目:生物 校内科目名:生物  
 教科担当者:小林 光明 富樫 良隆

対象年次:3

4単位

使用教科書・教材

教科書:  
 「改訂版 生物」(数研出版)

補助教材:

「三訂版 フォトサイエンス生物図録」(数研出版)

「三訂版 リードLightノート 生物」(数研出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1 生命現象と物質 (1) 生体物質と細胞 (2) 生命現象を支えるタンパク質 (3) 代謝とエネルギー 2 遺伝子のはたらき (1) 遺伝情報の発現 (2) 遺伝子の発現調節 (3) バイオテクノロジー 3 生殖と発生 (1) 生物の生殖と配偶子の形成 (2) 動物の発生 (3) 動物の発生のしくみ (4) 発生をつかさどる遺伝子	生物基礎での学習を基盤に更に生物に関する原理・法則を理解し、探究する方法を身に付けることを目的とする。「生命現象と物質」「遺伝子のはたらき」「生殖と発生」「生態と環境」を中心に授業を行う。 また、実験や実習を通して生物学的に探究する方法や問題解決の能力と態度を育成する。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身に付いているか。	48
2 学期	<2学期> (5) 植物の発生 4 生物の環境応答 (1) 動物の刺激の受容と反応 (2) 動物の行動 (3) 植物の環境応答 5 生態と環境 (1) 個体群と生物群集 (2) 生態系の物質生産とエネルギーの流れ (3) 生態系と生物多様性	生物基礎での学習を基盤に更に生物に関する原理・法則を理解し、探究する方法を身に付けることを目的とする。「生命現象と物質」「遺伝子のはたらき」「生殖と発生」「生態と環境」を中心に授業を行う。 また、実験や実習を通して生物学的に探究する方法や問題解決の能力と態度を育成する。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身に付いているか。	56
3 学期	<3学期> 6 生物の進化と系統 (1) 生命の起源と生物の変遷 (2) 進化のしくみ (3) 生物の系統	生物基礎での学習を基盤に更に生物に関する原理・法則を理解し、探究する方法を身に付けることを目的とする。「生命現象と物質」「遺伝子のはたらき」「生殖と発生」「生態と環境」を中心に授業を行う。 また、実験や実習を通して生物学的に探究する方法や問題解決の能力と態度を育成する。	1 生物に関する基本的な概念、現象、法則性が理解できているか。 2 実験、観察を通して、生物を探究する方法、考察力を習得しているか。 3 生物学的な見方、考え方が身に付いているか。	36
			合計	140

# 令和5年度年間授業計画

教科:農 業 科目:生物活用 校内科目名:生物活用  
 教科担当者: 大寺 恵美

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材  
 「生物活用」(実教出版)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学 期	<1学期> 1 春～夏の各種草花・野菜播種 (1) 播種の方法 (2) 苗の移植方法 (3) 苗の定植 2 野菜苗の管理 (1) 施肥 (2) 支柱立て・誘引 (3) 収穫	実習を中心として、草花・野菜等の栽培を土作りから、播種、管理、収穫までの一連の過程を身をもって学習し、さらにその収穫物の利用についても学習する。	1 授業態度 (積極的に参加できたか。) 2 出席の状況 3 レポートの提出状況とその内容 (授業の内容の理解度) 上記をあわせて評価する。	24
2 学 期	<2学期> 3 秋～冬の各種草花・野菜播種 (1) 播種の方法 (2) 苗の移植方法 (3) 苗の定植 4 苗の管理 (1) 病虫害防除 (2) 施肥 (3) 収穫	実習を中心として、草花・野菜等の栽培を土作りから、播種、管理、収穫までの一連の過程を身をもって学習し、さらにその収穫物の利用についても学習する。	1 授業態度 (積極的に参加できたか。) 2 出席の状況 3 レポートの提出状況とその内容 (授業の内容の理解度) 上記をあわせて評価する。	28
3 学 期	<3学期> まとめ	実習を中心として、草花・野菜等の栽培を土作りから、播種、管理、収穫までの一連の過程を身をもって学習し、さらにその収穫物の利用についても学習する。	1 授業態度 (積極的に参加できたか。) 2 出席の状況 3 レポートの提出状況とその内容 (授業の内容の理解度) 上記をあわせて評価する。	18
合計				70